

# 局総開催 沖繩と協会の 交換意見 建設意

# 納期平準化は更に進展

## 品質確保・向上等で議論

（一社）建設コンサルタツ協会は8日、沖縄総合事務局との意見交換会をウェブ会議形式で開き、担い手確保・育成のための環境整備、技術力による選定、品質の確保・向上の3テーマについて議論した。建コン協が納期の平準化を求めたのに対し、沖総局は、3年度は昨年度よりもさらに平準化が進むとの見通しを説明。条件明示チェックシートについては、適切・効果的な運用を図っていくことを両者が確認した。

の取り組みに感謝の意を表明。また、この1年間の活動の実態把握、好事例の水平展開、有効な施策の理解・浸透の3点をポイントに議論する意向を示し、「実りある意見交換会になることを祈念している」と述べた。沖総局の岩田美幸次長は、

「沖繩では、履行期限の平準化、予定価格の適切な設定、適切な設計変更を3大テーマに取り組んでいる。目標の達成に向けて努力していきたい」とした。

担い手の確保・育成のための環境整備について建コン協は、年度末に集中する納期の平準化、納期分散を実現するための国債・翌債の活用などを要望した。沖総局は、平準化に力を入れており、3年度は昨年度よりもさらに進展するとの見通しを説明。ウィークリース

等々を踏まえて検討する。品質の確保、向上に関する議論の中では、条件明示チェックシートの適切・効果的な活用を求めた。建コン協の調査によると、国交省の詳細設計業務では、特記仕様書への記載率、チェックシートの作成率とも低水準にとどまっている。沖総局は、特記仕様書にチェックシートを貸与する旨を記載しており、引き続き適切に取り組むと回答した上で、今後運用の実態を確認するとした。また、建コン協はECI方式の活用を要望。沖総局は、対象工事が少ないためにこれまで実績はないが、積極的に採用していきたいとした。意見交換は、建コン協

望また、地域コンサルタツの技術力向上を図ることが出来る仕組みを検討するよう求めた。沖総局は、元年度から一括審査方式の試行に取り組んでいるとしたほか、同種類似実績は、自治体の実績も国と同レベルで評価していると回答。業務チャレンジ型の試行は、地域特性や他地整の動向

本部、九州支部、沖縄支部、沖総局を結んだウェブ会議形式で実施した。建コン協からは野崎会長、重永智之副会長、酒井利夫副会長、田中清九州支部長、中川裕副支部長、渡邊俊光副支部長ら本部、九州支部の幹部が出席。沖総局からは岩田次長、坂井功開発建設部長らが参加した。



建コン協の野崎秀則会長は冒頭、ウィークリースタンスの推進や、若手技術者育成に関する同局

局長の岩田美幸次長は、

「沖繩では、履行期限の平準化、予定価格の適切な設定、適切な設計変更を3大テーマに取り組んでいる。目標の達成に向けて努力していきたい」とした。

担い手の確保・育成のための環境整備について建コン協は、年度末に集中する納期の平準化、納期分散を実現するための国債・翌債の活用などを要望した。沖総局は、平準化に力を入れており、3年度は昨年度よりもさらに進展するとの見通しを説明。ウィークリース